



JAPAN HERITAGE
日本遺産

三重県明和町

第三十五回

斎王まつり

～永遠の祈り～

平成29年

6月 **3** 土 (雨天の場合中止)

6月 **4** 日 (雨天の場合中止)

前夜祭 17時～21時

斎王市 15時～21時

斎宮歴史博物館会場

特別ゲスト/作曲家・音楽プロデューサー 長岡成貢

出発式・禊の儀・斎王群行・社頭の儀 12時15分～15時

ざいこう平安の杜～上園芝生広場～斎宮歴史博物館

斎王市・アトラクション 10時～15時

斎宮歴史博物館会場

配役

齋王 さいおう



中前 安薫
(大阪府大阪市)

子供齋王



竹林 優奈
(伊勢市)

女別当 にべつとう



中保 友里
(津市)

内侍 ないし



奥山 玲加
(伊勢市)



荒木 遥菜
(津市)



中井 美波
(四日市市)



橋本 茉奈
(愛知県名古屋市)

采女 うねめ



伊藤 実沙
(伊勢市)



水口 佑華
(津市)



小林 明希子
(四日市市)



岡田 さやか
(津市)



笠井 純花
(兵庫県加古川市)

命婦 みょうぶ



坂 礼子
(鈴鹿市)



山本 由佳
(志摩市)



佐藤 彩希
(埼玉県ふじみ野市)



坂谷 有絵
(伊勢市)



浜崎 小夜子
(大阪府大阪市)

舞人 まいびと



櫻井 綾乃
(津市)



西村真夕姫
(尾鷲市)



濱西 千佳
(北牟婁郡紀北町)

近衛使 このえつかい



柏木 綾子
(大阪府大阪市)

風流傘 ふうりゅうがさ



桐山 卓也
(津市)



山本 泰広
(松阪市)



井尻 季幸
(大阪府泉佐野市)



中北 純平
(志摩市)

齋宮十二司官人



江原 章人
(伊勢市)



中村 幸美
(明和町)



笹田 千尋
(東京都三鷹市)



中島 正尋
(滋賀県甲賀市)

検非違使 けびいし



協力参加

皇學館大学
雅楽部の皆さん

齋王まつり総司会

大西 敬子



第二十一回齋王まつり「第千代齋王役」。
齋王まつりの魅力を多くの人に伝えたい！
という思いから、約十年間、司会を担当。
三重いちご「かおりの」、三重ブランド野
菜のプロモーションキャラクターを務める
など、東海地方を中心にタレント・モデル
活動を行っています。

第三十五回 齋王まつりを迎えて

齋王まつり会場（国史跡齋宮跡）一帯は、昨年の「さいくう平安の杜」につづいて「いつきのみや地域交流センター」が完成し、明和町観光案内所などが整備され、観光地「齋宮」として、皆さまをお迎えする準備が整いました。

昨年の「齋王群行」は、さいくう平安の杜を出発して、旧参宮街道を通り齋宮歴史博物館会場へと進み、「社頭の儀」を執り行いました。

今年の「齋王群行」は「禊の儀」が復活します。さいくう平安の杜での「出発式」は同じですが、上園芝生広場（齋宮駅北側）にて「禊の儀」を行い、新しく整備された古代伊勢道を通り齋宮歴史博物館会場へと向かいます。

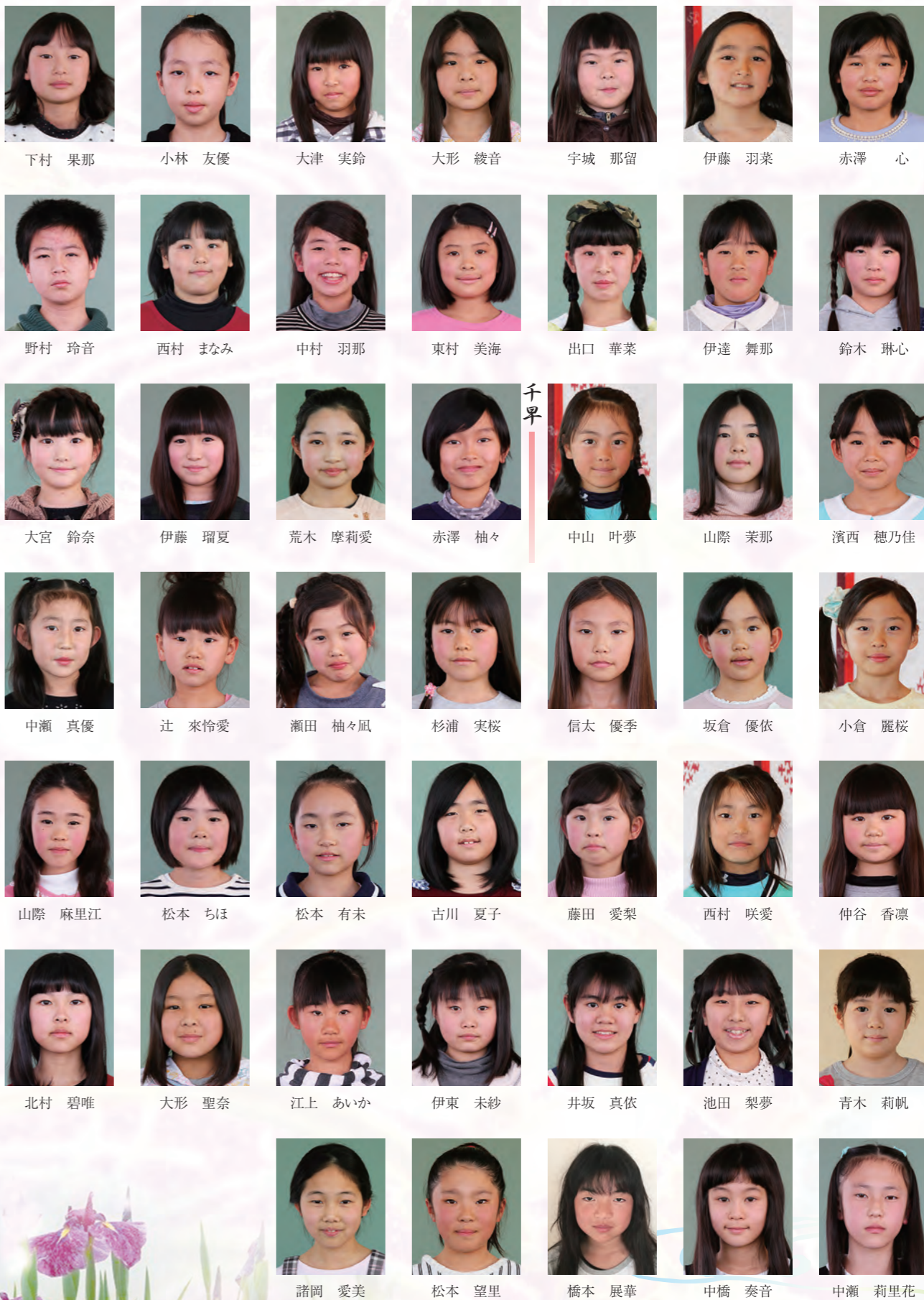
また、今回の特別ゲストの「長岡成貢」氏より、希望の齋王まつりのテーマ曲「永遠の祈り」を創っていただきました。

それは齋王さまにふさわしい幻想的で高貴なイメージの素晴らしい曲です。

随所にこの曲が流れてきます。皆さまもこの「永遠の祈り」で、遙か悠久のみやこを偲んでいただいで、より見どころが豊富な「齋王まつり」を楽しんで頂きたいと思えます。

齋王まつり実行委員会

童・童女 出演者 (順不同)



6/4(日) (雨天中止) 齋王市 アトラクション 10:00 ~ 15:00 齋宮歴史博物館会場

6/3(土) (雨天中止) 齋王市 前夜祭 17:00 ~ 21:00 齋宮歴史博物館会場

特別ゲスト 長岡成貢 齋王他出演者紹介

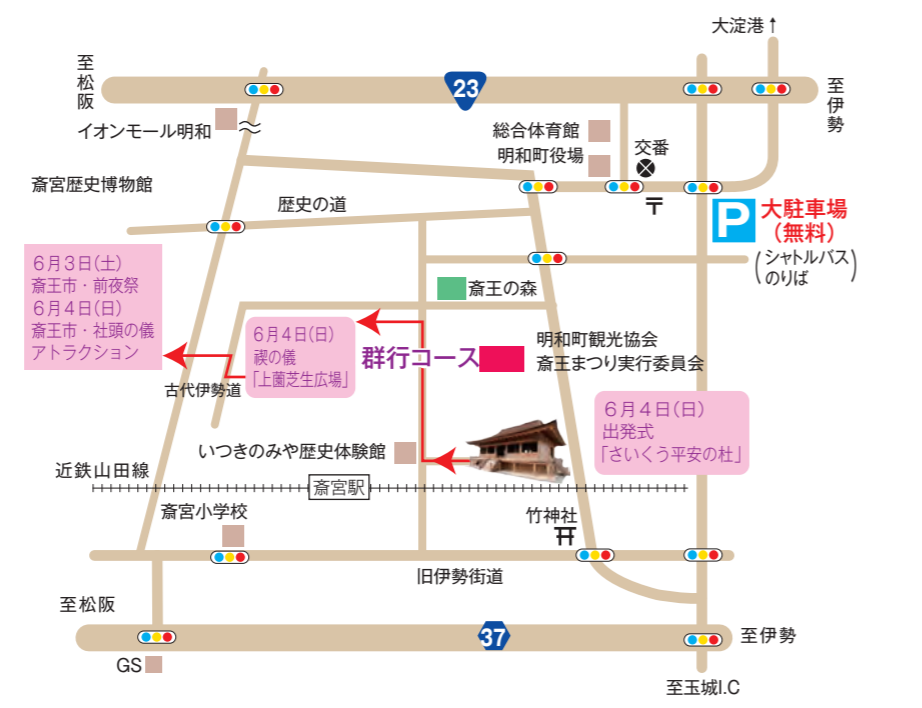
齋王群行 さいくう平安の杜から 齋宮歴史博物館会場まで

社頭の儀 14:45 ~ 15:00

出発式・禊の儀 12:15 ~ 協力参加 皇學館大学雅楽部

もくじ

- 齋王まつり配役..... 2
- 齋王まつり童・童女出演者..... 4
- 「さいくう平安の杜」からはじまる齋王まつり..... 6
- 王朝の暮らし..... 8
- 齋宮跡の発掘調査..... 10
- 齋王一覧..... 12
- いつきのみや歴史体験館..... 13
- 特別ゲスト紹介 長岡成貢..... 14
- 実行委員会 新メンバー挨拶... 15
- 図書紹介 / 実行委員会組織体制... 16
- 齋王まつり実行委員会活動..... 17
- 群行衣裳..... 18
- フォトコンテスト..... 20
- 第34回齋王まつりの思い出... 22



「きんぐろ平安の杜」からはじまる斎王まつり

斎宮歴史博物館副参事兼学芸普及課長

榎村 寛之



平成二十七（二〇一五）年十月、「さいくろ平安の杜」がオープンしました。斎宮の遺跡、斎宮跡は東西二キロメートル、南北七〇メートルにわたる範囲が国によって史跡に指定された広大な遺跡ですが、そのほとんどが台地上の平坦な地形であるため、ランドマークや記念写真を撮るのに適した所はほとんどありませんでした。一目で斎宮らしい雰囲気わかる所として、この公園はまさに「斎宮跡のシンボルゾーン」といえる所です。そのため、昨年平成二十八（二〇一六）年より、斎王まつりも、ここを出発会場とするようになりました。

このゾーンは東西一〇〇メートル程度、南北一二〇メートル程度の、正方形に近い四角形をしています。これは今から一二三〇年ぐらい前に造られた、ほとんど正方形の区画の大部分を、その場所に再現したもののなのです。斎宮跡では、奈良から京都に都が移った8世紀末期に、一二〇メートル四方の区画が東西最つまり国守の代理や次官を兼ねるといふ事例が生じます。斎王のマネージャーのような立場だった斎宮頭が、行政的な仕事を伊勢国と分担するようになるのです。当然行政事務も大幅に増えたと考えられ、実際延暦二十二年（八〇三）には、文書の作成などの書類事務を行う史生が四人配置され、文書行政が大幅に拡大されたものと考えられます。こうした公文書をやりとりするにも色々な儀式が必要でした。

また、この広い中庭を使って斎宮の祭の一部も行われていた可能性ががあります。斎宮では毎年二月に、斎宮のある多気郡、伊勢神宮のある度会郡の神社の祝（はふり＝神官）を集めて、祈年祭（きねんさい）という祭を行います。この二つの郡は大変神社が多く、伊勢国の他の郡では二十座もないのに、二郡で九十八座もありました。その祝たちが斎宮に会して、農業の始めにあたり、国家から幣帛（送り物）を賜るといふ祭が行われていたのです。

正殿はこのような機会に斎宮頭が着座する建物となっていたようです。一方、三面庇の大型建物は、西側の脇殿で、宴会や儀礼を行う会場などにも使

えたようです。斎宮寮の役人たちや、伊

大七列、南北四列並ぶ碁盤目のような地割、方格地割が造られました。この地割の中には、斎王の宮殿と、斎王に仕えた斎宮寮という役所などが所在しており、平城京や長岡京などの都市設計を踏まえた、時代の最先端を行く計画的なオフィス街になっていたのです。斎宮歴史博物館では、一九九〇年代に斎王が住んでいた「内院」と呼ばれる地域と、整然とした倉庫が置かれた区画を集境的に調査して、その成果を、博物館の展示室にある四百分の一模型と、「斎宮跡歴史ロマン広場」の中にある斎宮の十分の一模型として公開しました。

ところが、斎王が住む内院は、その一角が近鉄の線路と重なっていたり、現在竹神社という神社になっているなどの事情で、現地で区画を再現することはできません。そこで博物館、明和町、地域の人々も交えた検討の結果、斎宮内院の北側で、区画全体では、東から4列目、北から2列目の通称柳原区画を重点的に調査することになりました。

このような調査成果と、現存する平安時代・鎌倉時代の建物を参考にしながら、建築史の専門家、神戸大学黒田龍二先生との共同研究の成果をもとに、文化庁とも協議を重ね、三棟の建物が復元され、同時期にこの区画にあった十数棟に及ぶ小型の建物も、全て地表に表示をしたのです。

なんてことをくたくだ述べても、この区画の具体的なイメージはよくわからないと思います。実は「さいくろ平安の杜」では、VR（バーチャルリアリティ）を見ていただけるタブレットを用意して、区画の状況、方格地割の全体復元、斎宮内院の状況、そしてこの中庭に九十八人の祝が集まって儀式を行っている様子などをごらん頂くサービスも始まっています。

そんな平安時代の斎宮を実物大で体験できる施設なので、このゾーンは斎王まつりでも重要な役割を果たします。斎王

査することになりました。この区画では、以前に大型の建物が一部発掘されており、内院について重要な、斎宮寮の中心区画と推定されていました。その区画を発掘して再現する、という計画が始まったのです。そして、現在道路となっている東端の部分を除いて、区画内のほぼ全域を発掘しました。その成果は驚くべきものでした。

まず、この区画で最も大きな建物が、三面に庇がある珍しい構造をしており、しかも九世紀前半のごく一時期にだけ出現したもので、正殿ではないことが明らかになりました。そして区画の中心部では、四面に庇を持つ立派な建物が五回も建て替えられ、約二五〇年間にわたって存在したことが明らかになったのです。四面に庇を持つ建物は斎宮跡のこれまでの調査でもほとんど無く、特に区画の中央部分で発見されたのは初めてのことでした。このような建物は、平城京や平安宮の中心建物、また、地方の国の役所で

群行に参加する人々はこの集まり、出発の儀式を行い、南側の区画道路に出ます。この道路は都と伊勢神宮を結ぶ官道を兼ねていたと考えられ、南側には斎宮の内院、つまり斎王の住む区画がありました。近鉄の線路の側には、内院を囲っていた塀の柱列が再現表示されています。まさに斎王の群行が通るのに相応しい、斎宮の花道なのです。

そして本年からは、群行は古代伊勢道を通るようになります。この幅九メートルの道も、奈良時代以来斎王や都と伊勢神宮を行き来する官人たちが通った重要な道路だったのです。この二つの復元道路の間、いつきのみや歴史体験館と斎王の森をつなぐ道路も、方格地割の区画道路で、幅約九メートルあったことがわかっており、昨年度修景が行われました。さらに芝生広場の北側の道も、狭い道ではありますが、平安時代中期には造られていた道路であることがわかっています。

本年度から斎王まつりは、平安時代の斎王が通っていたであろう道をそのままに通り、奈良時代の斎宮があった博物館の南側に向かって進んでいくのです。

ある国庁の正殿でも採用された形式で、四面に張り出した庇は、その主の権威を表しているのです。そんな建物が区画の中央に長い間存在したのですから、まさにこの区画の中心建物、正殿と考えられたわけです。そして同時代には、大型の三面庇の建物と向かい合うように、南北に伸びたやや太い柱を持つ建物もあったことがわかったのです。この三棟は、カタカナの「コ」の字の縦棒を上にして横にした「門」のような形で並んでおり、正殿の南側は中庭のような広場になっていました。

この区画は遺物が少なく、斎宮寮の長官である斎宮頭の住居にしては生活感がないことから、儀式用の目的で作られたもので、南側の庭は斎宮の関係者を集めて斎宮頭が正殿に座り、色々な儀式を行うための場所だったと考えられます。

平安時代初期の斎宮頭は、斎王を支えて斎宮寮を動かし、都と連絡を取るだけではなく、斎宮に調庸（地方で収取される税の一種）を送ってくる各地の国府や、伊勢神宮の行政組織である太神宮司と交渉を行っていました。また、延暦十年（七九一）には、賀茂人麻呂という斎宮頭が伊勢守を兼ねるといふ人事があり、以後しばしば斎宮頭が伊勢権嚙守や介、

王朝の暮らし

齋宮での日常生活、それは神に仕えるという特殊な任務を担う機関でありながらも、神事に関わること以外は、都を写したかのような雅やかなものであったことが知られています。食事や調度品の数々、一〇世紀ころの齋宮の様子を知る手がかりとなる『延喜式』は、おなじ時代の貴族の生活となら遜色のない齋王の生活を伝えています。

ところで、齋王はどんな装束を身につけていたのでしょうか。唯一齋王の装束について書き残されたものに『左経記』があります。これは源経房という貴族の日記で、それによると齋王良子内親王の成人の衣装として、父天皇より贈られたのが、白い裳唐衣と緋色の袴だったそうです。白は色のなかでもっとも高貴な色ですから、神に仕える者の装束として、何か齋宮らしさを物語っているようでもあります。



ゆする杯(模造)

●ゆする杯
研ぎだし蒔絵をほどこした五本の曲線の脚をもつ台の上に、銀の蓋付きの器を置き、器のなかには「ゆする」が入っています。ゆするとはコメのとぎ汁のことです。髪を伸ばす効果があると信じられており、髪を梳るときにもちいられました。本来は台に飾りひもを垂らした錦の敷物を置きますが、ここでは略しています。

●角盥
把手のついた盥で、その形が名の由来となっていました。把手は、もち運びのためと、使用時に袖を掛けて濡れないようにするための役目があったと考えられています。主に手や顔を洗うために使われていたようです。平安時代の様式に倣って金銅製の把手装飾を付けましたが、鎌倉時代以前の絵巻にみられるものほどんどもが無地で表現されているので、それにしたいが復元しました。

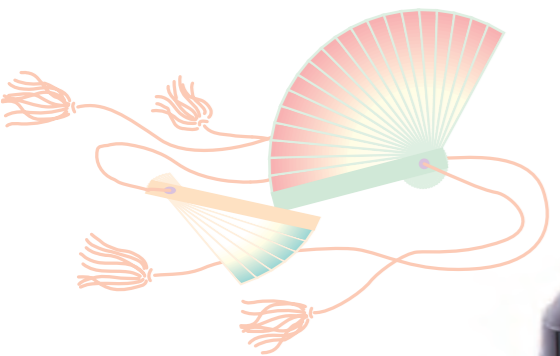


角盥(模造)



唐櫛笥(模造)

●唐櫛笥
二段重ねにつくりつけられた大小ふたつの箱を鷲脚の入角形台に乗せる調度品で、通常は男性貴族が使用するものといわれています。上段の箱には櫛を納め、容量の大きい下段には冠を収納したとされています。春日大社が所蔵する国宝の本宮御神宝「黒塗唐櫛笥(平安時代)」を参考に復元しました。



平成28年度の

齋宮跡の発掘調査



調査中の鍛冶工房(南から)



溝と溝の間にある激しい掘り込み

過去の調査と合わせると、今回発見された板塀は、南北約五六メートル、東西約四八メートルの方形区画となると考えられます。飛鳥時代の堅穴建物が埋没した後に造られており、板塀は飛鳥時代よ

【第一八九次調査】史跡西部に位置する飛鳥く奈良時代にかけての「初期齋宮」の解明を目的として、約一二〇平方メートルを調査しました。

発掘面積は狭かったのですが、今回の調査では、調査区の西側で奈良時代の齋宮の宮殿を囲むと考えられる板塀や飛鳥時代の堅穴建物が発見されるなど、大変重要な成果がありました。

辺には鍛冶関係の工房が点在していた可能性があります。今後の調査の進展が待たれます。

これまで齋宮跡では、史跡西部には飛鳥時代から奈良時代の「初期齋宮」があり、史跡東部には奈良時代末から整備が始まる「方格地割」のなかに奈良時代末から平安時代後期の齋宮の宮殿「内院」や齋宮寮など齋宮中枢施設がありました。



188次調査・189次調査区位置図

平成二八年度の調査

平成二八年度の齋宮跡の発掘調査は、齋宮跡歴史ロマン広場西側で実施した齋宮跡第一八八次調査と、史跡西南部に位置する竹川地区の近鉄線北側で実施した齋宮跡第一八九次調査を行いました。

【第一八八次調査】古代伊勢道沿いの実態解明を目的に、約七〇〇平方メートルを調査しました。

調査で確認できた遺構には、古代伊勢道に直交する南北溝、土坑、掘立柱建物、鉄器加工に関わる工房跡とみられる堅穴状遺構があります。また、出土遺物には、土師器や須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、白磁、製塩土器、瓦器など平安時代後期から末を中心とした多数の土器のほか、土錘や鉄器の小片なども出土しました。

役所に使われたような大型の掘立柱建物こそありませんが、古代伊勢道に直交する六本の南北溝と、掘立柱建物が十数棟確認されており、古代伊勢道沿いに南北溝で区画された複数の屋敷地群が広がっていたことが判明しました。

また、調査区西側の溝と溝に挟まれた幅三・五〜四メートル、長さ一三メー

り新しいことがわかります。板塀に囲まれた方形区画は奈良時代の齋宮の宮殿と考えられ、今後、区画内の構造の解明が期待されます。



奈良時代の板塀の痕跡(北西から)



第189次調査全景(西から)



第188次調査区(東から)。写真右の道路は古代伊勢道

トル以上の範囲には、円形や不定形の掘り込みが重複して見つかりました。掘込みは、溝の外側には及んでおらず、ここは屋敷地の外側にあつて、共同の入会地として土取りなどに供されたと思われる。土地利用の具体像が判明する事例はあまりなく、大変興味深い事例です。

最後に、工房かと思われる堅穴状遺構について紹介します。堅穴状遺構は、東西四メートル×南北三・五メートルの方形掘り込みの中に、鉄屑が混じる焼土が集中する箇所があったことから、小規模な鍛冶が行われたのではと推定しています。今回の調査区の約一〇〇メートル西側にある齋宮跡第五〇次調査区でも鎌倉時代の焼土が伴う同様の遺構があり、周

【発掘体感ミュージアム】第一八八次発掘調査では、初の試みとして、遺跡の発掘調査をリアルタイムで体感できる「さいくう発掘体感ミュージアム」を開設しました。六月から十一月の発掘期間中、解説担当者を常時現地に配置して、毎日出てくる遺構や遺物をその場で公開し、発掘現場の感動を体感して頂きました。また、お皿に墨で文字や絵を描く墨書土器体験も常時実施するとともに、毎月一回の休日現場公開や、事前申込制の体験発掘も実施しました。

来場者からは、ナマの現場を解説付きで見ることが出来て感動したという感想が多く寄せられ、期間中の来場者は最終的に四八〇〇人に達しました。

これからも齋宮歴史博物館の行う発掘調査にご期待ください。

(齋宮歴史博物館 調査研究課)



現場公開の様子

齋王の伊勢滞在期間は短くて二年、長い人では三十二年という例があり、年齢は五歳から十五歳の少女に集中しており、最高で群行時三十二歳という齋王もいます。

*は女王(天皇の娘以外の皇族女性)
()内は実在の確認できない齋王
○は齋宮に群行した齋王
△は齋宮に群行しなかった齋王

Table with 4 columns: 時代 (Era), 歴代齋王 (Historical Emperor), 在任期間年 (Reign Years), 天皇 (Emperor). Rows include 伝説の時代の齋王 (Legendary Era), 飛鳥 (Asuka), 奈良 (Nara), 平安 (Heian).

Table with 4 columns: 鎌倉 (Muromachi), 平安 (Heian), 南北朝 (Nanpoku), 北朝 (Northern Court). Rows list various figures like 皇子 (Prince), 皇太子 (Crown Prince), 皇孫 (Grand Prince), etc., with their reign periods and historical events.



いつきのみや歴史体験館で「盤双六」を体験しよう!!

「いつきのみや歴史体験館」は「齋王まつり」が開催される明和町にあります。近鉄齋宮駅を降りてすぐ目の前にある寝殿造をモチーフにした建物です。

当館では、いつでもできる随時体験として、貝覆い、蹴鞠などの遊びや小柱を羽織っていたり、齋王が乗ったとされる葱華輦に乗ったりと、貴族の日常体験をご用意しています。

貴族から庶民まで大流行! 禁止令も出された!?

盤双六は、向かい合う十二個ずつのマス目の書かれた盤と、白黒十五個ずつの駒、サイコロが二つ、サイコロを振りだすための筒を使って一対一で競う遊びで



遊び方は何種類もあり、当館では初級編「つまかえ」「追回」、中級編「折り葉」、上級編「本双六」を紹介しています。ここでは初級編の「つまかえ」の遊び方を簡単に説明します。

古代エジプトのセネトが起源とされ、中国から日本に伝えられたものです。古代において盤双六はとても流行ったとされ、貴族から庶民まで身分の上下を問わず親しまれたそうです。

また、当時の人は盤双六で賭け事もしていたようです。鎌倉時代には領地を賭け物にして負けてしまひ、領地を手放した幕府御家人もいたようです。

そんな盤双六ですが、平安時代から中世に至るまでの実物は残っていません。江戸時代以降に婚礼用具として用いられた時絵を施したものが伝わっていますが、現在では、なかなか実物を見る機会がありません。

遊び方とっても簡単! 練習して大会に出場しよう!!

その他に、十二単などの平安装束試着体験、機織りや草木染めなど、年間を通じて様々な体験や講座(予約制・有料)を開催しています。

当館では、「盤双六」の遊び方をスタッフの教える「盤双六教室」を定期的に開催しています。「盤双六」をマスターしたら参加できます! 優勝を目指して参加してみましよう!



いつきのみや歴史体験館
三重県多気郡明和町齋宮3046番地25
TEL.0596-52-3890
ホームページ http://www.itukinomiya.jp/
【入館料】無料 【開館時間】9:30~17:00
【休館日】月曜日(祝日の場合を除く)、祝日の翌日、年末年始
【交通案内】近鉄齋宮駅史跡公園口下車すぐ 伊勢自動車道玉城ICより約20分



「永遠の祈り」長岡成貢

まだ幼い皇女が齋王に選ばれ、野々宮での精進潔斎の日々を送られた後、父天皇との別れの儀式を終え、いよいよ伊勢の地に向かわれる。数百名からなる壮麗な群行の中、葱華輦そうかかんに揺られながら、幼き齋王は一体どのような思いで伊勢齋宮の地に向かわれたのでしょうか。

まだあどけなさが残るそんな幼き（小さな）齋王が、ここ齋宮にお住まいになり、やがて神の御杖代としての重要な役割を果たされる（大きな）存在になられる無限のダイナミズム、「齋王」という崇高なる「祈りのひめみこ」のイメージは、美しさと悲しさを併せ持った世界でたった一つの「永遠のファンタジー」である。そして、その神に仕えるお姫さまの物語は、日本の神話と歴史の中で異彩を放って永遠に輝き続ける。

昨年、齋王まつりのテーマ曲として制作し、献上させていただいた「永遠の祈り」の制作の背景には、そんな齋王の世界、祈りのメッセージを音楽で表現し世

界中に発信したい、そしてこの齋宮の地で平和の祈りを捧げる日々を送られた歴代の齋王達に感謝の気持ちを捧げたいという思いがありました。そして昨年11月には、齋王まつり第32代八木美海齋王、齋王まつり実行委員会の皆さまと共に、伊勢神宮外宮勾玉池の奉納舞台にて謹んで「永遠の祈り」を演奏し、ご奉納させて頂きました。

そして本年度、この「齋王まつりのテーマ／永遠の祈り」を始め、これまで長年にわたり齋王のイメージで作ってきた楽曲をまとめてCD化して日本中、そして世界に発信していく予定です。決して歴史的な史実からだけでは見えてこない「齋王」のイメージ、「齋王」の祈りのメッセージを、音楽や歌を通して多くの人々の心に届ける事が出来れば、この地で祈りの日々を送られた歴代の齋王さまも、この地に眠る齋王さまも、きっとお喜びになれるのではないのでしょうか。そんな願いを込めて。

（CD発売日など詳しい情報は、長岡成貢ホームページ www.inimemiko.co.jp）



実行委員会 新メンバー挨拶

世界から見た日本の祈り

三浦 知子



二〇一七年齋王まつり実行委員会で、そもそも齋王まつりとは、その人生を神に仕え捧げた齋王さまを初めとする多くの方々への鎮魂の思いから始まったという説明がありました。三十五年前そのように深い思いを抱いた地元の人たちが一丸となって行動し続けたからこそ、今日の齋王まつりがあることを知り、深い感銘を受けました。

私は十歳からアメリカで育ち不思議なご縁で二〇一〇年に伊勢、そして明和町へと導かれて参りました。

海外で育ったからこそ観える日本。それは四季折々の豊かな色、香、音に恵まれた島国。それ故によく観察し、大自然とともに生き、山、大地、川、海の恵みに感謝を捧げ、祈りが日常の中にさりげなく存在する、そんな文化が育まれてきた国。

食前の「いただきます」。

私たちが口にする食べ物はすべて命あつてのもの。その命を「いただきます」と意宣いのり、ありがとうございます。

「お蔭さま」。

目に見えるものは氷山の一角にしかず、ほとんどが見えない領域でこの世は成り立っています。

私は日本の文化が大好きですし、とても誇りに思っています。齋王さまはどのような思いで都から齋宮へと赴き、櫻、祈りを捧げてきたのか。この地でご縁を頂いたものとして、微力ながらも約六六〇年間続いた齋王さまの祈りを次世代へと繋いでいくお手伝いができれば大変幸いです。

長岡成貢（ながおかせいこう）

一九六一年 三重県明和町出身。作曲家／音楽プロデューサー

SMAP、EXILE、中島美嘉、嵐、KINKY DIOS、CHEMISTRY、MISIA など数多くのアーティストへの楽曲提供、編曲、プロデュースを始め、TBS 日曜劇場「JIN-RO」、映画「桜田門外ノ変」、モントリオール世界映画祭2016で最優秀芸術賞を受賞したEXILE HIRO 初プロデュース作品「たたら侍」など数多くの映画、ドラマ、アニメ作品を手掛ける。「齋

宮物語／齋王の舞」、第六十二回伊勢神宮式年遷宮「白石献上歌」、齋王まつりテーマ曲「永遠の祈り」等を制作し、伊勢神宮にて数回にわたる奉納演奏を行う。また、日本文化遺産「齋王のみやこ齋宮」三重県明和町観光大使（第一号）、齋王まつり実行委員会顧問を務めるなど、地元との文化交流「伊勢／齋王」というフィルターを通じた日本文化の世界発信をライフワークとしている。



齋王まつり実行委員会へ 入会させて頂くことになりました。

間宮 辰典

この度、齋王まつり実行委員会へ入会させて頂くことになりました間宮辰典と申します。

今年で齋王まつりは、第三十五回目と大変歴史あるお祭りでお手伝いをさせて頂くのがいささか緊張しております。

私なりに頑張り、皆様と楽しみながらボランティアをしたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

参加したきっかけは、仕事やプライベートでもお世話になっている実行委員会の方に誘って頂いた事や、父もまた齋王まつりの実行委員だったからです。

また私が今年から地元へ帰ってきたこともあり、もつと地元の事を知りたいなと感じたからです。

歴史ある齋王まつりですが、実際恥ずかしながら私自身は一度も行ったことがないのでわかりません。

インターネットで調べてみるとかなり大規模なお祭りでビックリしました。

さらにビックリした事が、この規模のお祭りにも関わらず実行委員会がボランティアで行っているところが凄く思いました。

齋王の事や明和町の事を少しでも知り身に



図書館の紹介

私達の「齋宮」について
より多くのことを知っていただくために
―地元で読める齋宮関係図書のご紹介―

凡例
◎ふるさと会館(図書館)で貸出可 ○ふるさと会館(図書館)で閲覧可
☆いつきのみや歴史体験館・博物館ミュージアムショップで販売
◇齋宮歴史博物館図書ホールで閲覧可

「齋宮」の入門書として	郷土の歴史として「齋宮」を知りたい方に	齋王三行の旅した「群行」の道を歩いてみたい方に	「齋王」を小説で読んでみたい方に	「齋宮」や「齋王」について考えてみたい方に
奥井宏忠著「別れの御櫛―齋の宮と齋宮寮」光書房○◇ 明和町教育委員会編「郷土史に見る齋王」○◇ 三重の文化財と自然を守る会編「伊勢齋王宮の歴史と保存」○◇ 「同Ⅱ」○◇	田畑美穂著「齋王のみち―伊勢齋宮の文化史―」中日新聞本社○◇ 村井康彦監修「齋王の道」向陽書房○☆ 内田康夫著「齋王の葬列」角川書店○◇ 池田美由喜著「鷲草―大津皇子とその姉と―」新風舎◇ 郡俊子著「倭姫宮の御巡行」勢陽文芸○◇ 々々 「伊勢齋王の恋」近代文芸社○◇ 々々 「哀しみの伊勢大来齋王」近代文芸社○◇	津田由伎子著「齋王」学生社○◇ 山中智恵子著「齋宮女御御子女王―歌と生涯―」大和書房○◇ 々々 「齋宮志」大和書房○◇ 々々 「続齋宮志」砂子屋書房○◇ 々々 「齋宮筋記」砂子屋書房○◇ 所京子著「齋王和歌文学の史的探究」国書刊行会○◇ 々々 「齋王の歴史と文学」国書刊行会○◇ 榎村寛之著「律令天皇制祭祀の研究」塙書房○◇ 中川ただもと著「齋宮和歌の解釈と鑑賞」紫明の会☆ 服藤早苗著「歴史のなかの皇女たち」小学館☆	谷口布有緒文 里中満智子画「齋王ロマン 都わすれの詩」明和町○☆ 中野イツ著「齋宮物語」明和町○☆ 山川修司著「語り部の竹の齋王語り」近代文芸社○☆◇ 榎村寛之著「伊勢齋宮と齋王」塙書房☆	「齋宮」や「齋王」について考えてみたい方に



準備作業



第34回(28年度)齋王まつり実行委員会活動報告

(敬称略)

1月 7日(木) 事務所開き	6月 12日(日) 片付け・反省・打上
14日(木) 日本遺産PV撮影 衣裳準備 会計監査	24日(金) 第1回日本遺産活用推進協議会会議
16日(土) 日本遺産PV撮影(齋王役 前田 女官役 八木・中保)	7月 5日(金) 伊勢まつり会議 土井代表出席(伊勢市役所)
19日(火) 第3回梅まつり会議	7日(木) 役員会(反省会)
23日(土) 役員会	15日(金) フォトコンテスト応募締め切り
25日(月) 着付け班会議	19日(火) のぼり修理
29日(金) 総会	22日(金) 県依頼「Women In Innovation Summit」 「オアング」出演について 電通打合せ 事務局対応
2月 10日(水) 出演者募集締切	26日(火) のぼり修理
12日(金) 役員会(出演者書類選考)	27日(水) フォトコンテスト1次審査
15日(月) 着付班 衣裳整理	28日(木) 役員会(フォトコンテスト入賞・入賞作品選考)応募者61名応募作品114点
16日(火) 総務・財務班会議	8月 25日(木) 第2回日本遺産活用推進協議会会議
17日(水) 第4回梅まつり会議	31日(水) 第34回齋王まつりフォトコンテスト入賞・入選写真展 準備
25日(木) 実施班会議	9月 1日(木) 第34回齋王まつりフォトコンテスト入賞・入選写真展 (齋宮歴史博物館にて9月15日まで)
28日(日) 午前・着付け教室	4日(日) 第34回齋王まつりフォトコンテスト表彰式
午後・子供説明会(子ども齋王抽選 中央公民館)	8日(木) 役員会(臨時総会について)
3月 6日(日) 「梅まつり」(齋宮歴史博物館) (齋王役 前田 業平役 八木)	15日(木) マトコ写真撤回
15日(火) 役員会(選考会について)	16日(金) 第34回齋王まつりフォトコンテスト入賞・入選写真展・齋王まつりの思い出展 準備
17日(木) 衣裳出し	17日(土) いつきのみや観月会(齋王役 八木 女官役 丸山)
20日(日) 齋王役選考会(いつきのみや歴史体験館)	第34回齋王まつりフォトコンテスト入賞・入選写真展・齋王まつりの思い出展 (さいくう平安の杜 西脇殿にて10月2日迄)
21日(月) 日本遺産PV撮影(齋王役 前田 女官役 八木・中保)	21日(水) 役員会(伊勢まつりについて)
22日(火) 衣裳片付け	23日(金) 県依頼「Women In Innovation Summit」 「オアング」出演(齋王役 八木 女官役 島谷・中保)
23日(水) 第4回梅まつり会議	25日(日) 事務所移転作業
24日(木) J.サミット打ち合わせ(事務局対応)	30日(金) 臨時総会
25日(金) 本部会議	10月 9日(日) 伊勢まつり 齋王群行
4月 8日(金) 本部会議 リーフレット校正会議	17日(月) 衣裳片付け
14日(木) J.サミット打ち合わせ(事務局対応)	18日(火) 神宮奉納 長岡成真氏と打ち合わせ
18日(月) 齋王市会議	26日(水) FM三重 「あつとえりかのみんなのラジオ」収録 事務局対応
21日(木) 本部・実施班会議	27日(木) 役員会
22日(金) 三重テレビ「とつともワドクキ」(齋王役 八木 出演)	11月 7日(月) 衣裳準備(古道まつり)
自治会長代表会議(代表出席) 着付班 衣裳準備と整理	10日(木) 役員会
25日(月) J.サミット お出迎え(県依頼)(齋王役 前田)	13日(日) 古道まつり齋王群行
26日(火) 全体会議	18日(金) 衣裳片付け(古道まつり)準備(伊勢神宮奉納)
5月 4日(水) 竹切りだし作業	20日(日) 齋王まつりテーマ曲
6日(金) リーフレット回覧(明和町全戸配布)	伊勢神宮奉納(長岡成真氏主催・齋王役 八木 女官役 島谷・中保)
8日(日) 作業(竹運搬 のぼり立て準備 看板出し ステージ製作準備)	22日(火) 第1回 梅まつり会議
10日(火) 着付班 衣裳準備と整理	26日(土) ざいしょ市 着付け体験 出演者募集広報活動
12日(木) 着付班 衣裳準備と整理	12月 1日(木) 第35回齋王まつり出演者 募集開始
15日(日) 出演者説明会・リハーサル・ステージ製作・大道具製作	2日(金) 衣裳片付け(ざいしょ市)
16日(月) 知事表敬訪問	8日(木) 役員会
17日(火) アトラクション会議	12日(月) 齋王まつり思い出フォト展(さいくう平安の杜 西脇殿にて)
22日(日) 午前 のぼり立て	13日(火) 第2回梅まつり会議
午後 子ども出演者説明会リハーサル・ステージ組み立て	16日(金) 本部・広報班ポスター校正会議
27日(金) 最終全体会議	20日(火) 本部・広報班第2回ポスター校正会議
29日(日) 最終ステージ製作	22日(木) 事務所仕事納め
6月 1日(水) 実施班会議 衣裳出し 齋王市テント立て	
4日(土) 前夜祭	
5日(日) 齋王まつり	
9日(木) 衣裳片付け	

第35回(平成29年度)齋王まつり実行委員会組織体制

(敬称略・順不同) ◎班長 ○副班長

本部	代表 土井 祐治	名誉会長(町長) 中井幸充					
	副代表 森田 均	顧問 木戸口眞澄 西場信行 浜井初男 明石典男 辻井成人					
	企画 森下 清	長井雅美 辻 丈昭 東谷泰明 山川充造 長岡成貢					
	企画 森 菜津子						
	事務局 山中いづみ						
会計監事	朝倉 惟夫 久世 晃	相談役 辻 孝雄 渡邊幸宏 森島啓之 森下 清 東谷泰明 田中 貢 橋本久雄 新田一子 西川道子					
	任務分担の内容						
総務班	総務の実施 協賛金の計画 グッズ販売・スタンプラリー等 齋王市の実施 のぼり・看板計画実施 出発式・観会場の片付け	◎辻 正 ○三浦邦昭 中川裕正 奥山幸洋 鈴木健司 ○竹内和持 森島啓之 野田節雄 小林正明 竹内克巳 田中真司 橋本久雄 大西俊次郎 田中 貢 樋口文隆 辻 孝雄 小林順一 田端正俊					
着付会場班	着付会場内の管理 出演者の移動 記念写真	◎乾 秀治 ○北川和樹 江 京子 石田豊喜 澤 恒一 中瀬正実 東谷泰明					18
着付班	着付け準備と後片付け	◎西宮幸代 ○田中政子 八田明美 新谷千恵子 河村三枝子 ○安井澄代 富山正美 森 洋子 直井佳代 衣斐喜代美 北山良子 中川啓子 菊矢照子 森下昌子 加藤さわみ 夏井ちはる 西川美代子 寺西照美					18
実施	まつり会場班	前夜祭の実施 トラクションの実施 社頭の儀の実施	◎笛川 浩 ○中西修一 伊串金市 和佐田照夫 ○北山房夫 小林邦久 和佐田道子 ○北村哲也 間宮一彦 西道 涼 石田藤生 佐々木久夫 長谷川新				15
	群行班	群行の実施 出発式の実施 祝の儀の実施 社頭の儀の実施	◎岩佐康則 ○早川潤一 辻 満寿美 岩本温行 潮田拓也 ○東谷泰介 乾 健郎 中井啓悟 中谷優太 市野秀世 伊藤佳史 西岡 潤 浜口浩和 中島 宏 永井健太 森川高広 間宮辰典 秋山修一 下村幸一 石田真也 北岡 純				21
	舞台設営班	舞台の設営及び片付け	◎関岡武夫 ○野上但治 ○西岡信行				3
広報班	ポスター・パンフレット原案作成 広報・宣伝事業計画	◎山内 理 三浦知子					1
							※作業は実行委員 全員

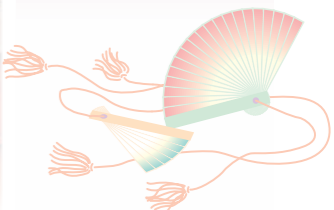
群行衣裳



長奉送使【ちょうぶそうし】



監送使ともいう。齋王一行を伊勢まで送り届ける群行の最高責任者。沿道における警察権が与えられており、任を終えると直ちに帰京しました。



検非違使【けびいし】

平安時代から室町時代にかけて京中の警察を担当した職。元来、平安京の治安維持は京職や衛府の任であったが、特定の官人に京中の警察を担当させることがあり、それが検非違使となり、やがて衛府や京職・弾正台などの権限を吸収し、王朝国家有数の警察機関となったのである。

看督長【かどのおさ】

検非違使庁の下級職員で、身分は火長。弘仁式制では左右それぞれにつき二人と定めら



- 冠
- 綾
- 太刀



- 1
- 2
- 3

齋宮十二司官人【さいくじゅうにしかんじん】
齋宮寮に属して十二の仕事をする司で勤務する官人

駕輿丁【かちよう】



齋王の乗る輿（葱華輦）を担ぐ人です。

齋王【さいおう】

天皇の即位ごとに、未婚の内親王（天皇の娘）あるいは女王（天皇の兄弟の娘など）の中から占いで選ばれ、天皇の譲位や崩御、あるいは肉親の不幸などにより解任されて、都に帰る決まりになっていました。伊勢神宮の祭りには、六月・十二月の月次祭と九月の神嘗祭に関わるのみで、ふだんは齋宮の中で都と同様の生活を送っていたものと考えられています。

古代から中世にかけての文学作品に登場する齋王も多く、「源氏物語」「伊勢物語」など、多くの文献に残されています。

十二単【じゅうにひとえ】

十二単とは近世になってからの呼び名で、正しくは女房装束、または裳唐衣といえます。単衣の上に桂を重ね、打衣、表着の上にはベストのような唐衣をはおり、腰には前部のないプリーツスカートのような裳をつけます。貴族の女性の晴の衣裳（正装）です。

髪は垂髪、作り眉。上衣は、上から順に唐衣、表着、打衣、桂、単となっています。

唐衣は衿、衿合わせがなく、上からはおります。表着は上の御衣とも呼ばれる垂領広袖の衿仕立てです。打衣は碇で打って光沢を出したところからこの名があります。形は表衣と同じで紋様はありません。桂は、內衣の意味で、垂領、広袖の衿仕立てで地紋があり、数枚重ねて用います。単は桂と同形ですが、衿、丈ともに長く、単仕立てで裾はひねり仕立てになっています。下衣

には袴と裳をつけます。袴は緋の長袴（若年未婚は濃色）、裳は背にあてて結び、後に長く垂らして引きます。



- 垂髪
- 唐衣
- 表着
- 打衣
- 衣（桂）（枚数を重ねている）
- 単
- 長袴
- 裳（全体）
- 裳の小腰
- 裳の引腰
- 櫛扇（相扇）
- 帖紙
- 日陰の糸（玉かずら）

※齋王が付けていたかどがは定かではありません。



内侍または命婦【ないしまたはみょうぶ】



齋宮で働く女官たちの最高責任者として、乳母や女孺の上にいる立場にありました。

女別当【によべつとう】



内侍や官旨が、齋王の住むエリアで公的性質をもつ仕事をこなす女官であるのに対して、乳母のように、齋王のプライベートな「宮家」としての用向きを担当していたのではないかと考えられますが、詳しいことはわかりません。

乳母【めのと】

母親に代わって養育を受け持つ女性で、齋宮には、齋王個人の「家」に仕える存在として、二名ないし三名が務めるようになっていました。

女孺【にようじゆ】



「めのわらわ」ともいう女官で、一等から三等に分かれており、それぞれに課せられた実務を担当していました。

采女【うねめ】



都では、地方の郡司の娘から選ばれ、天皇の御前などに奉仕していました。しかし、齋宮に采女がいたかどうかについてはよくわかっていません。

童・童女【わらわ・わらわめ】

都の官人が、家族で齋宮に赴任したということも考えられますが、その子供達が齋宮内に住んでいたという可能性はあります。しかし、群行の一員として加わっていたということにはなかつたようです。



齋王フォトコンテスト

齋王賞



「凜とした王女」

明和町

西岡 育生

明和町長賞



「子供齋王の微笑」松阪市 真弓 修一

明和町教育長賞



「出発の宴」伊勢市 瀧川 和夫

明和町議会議長賞



「都への想い」

明和町

苗村 明利

齋宮歴史博物館長賞



「天皇との別れの儀式」津市 名嶋 教恭

特別賞



「微笑」明和町 間宮 修

特別賞



「齋王とめい姫の昂揚」松阪市 亀谷 清宣

特別賞



「旅立ちの日」明和町 太田 昇

特別賞



「遥拝」伊勢市 山下 和宏

特別賞



「雅」大紀町 中西 宣夫

齋王まつりフォトコンテスト作品募集

◆サイズ

・カラーまたは白黒作品でサイズは四つ切のみ。

◆応募締め切り

・平成29年7月14日(金)当日消印有効

(郵送中の事故、破損については責任を負いかねます。)

◆応募方法

・応募票を作品裏面に貼付、郵送または齋王まつり事務局受付。

◆応募上の注意事項

・応募作品には、応募者本人が撮影したもので一人2点以内(未発表の作品)に限ります。

・応募票の各項目に楷書で記入し、題名・お名前にはかならずフリガナをつけてください。

(複数応募の場合は「コピーしてください。')

・入賞、入選作品については、あらかじめデータをお借りすることがあります。

・パンフレットやポスター、ホームページなどへの使用权は主催者に帰属します。

・応募作品のご返却はいたしません。

◆賞

・入賞は、10賞(齋王賞ほか)、入選は10作品

◆選考方法

・作品は齋王まつり実行委員会で選考いたします。

◆発表

・HPにて発表いたします。

・入賞者には直接通知いたします。(8月上旬頃)

◆応募先

齋王まつり実行委員会「フォトコンテスト」係

◆応募・問い合わせ先

〒515-0321

三重県多気郡明和町齋宮2811番地

齋王まつり実行委員会事務局

電話 0596-15210054



第32代 齋王役
八木 美海

齋王役を務めて

齋王まつりの日にたくさんの方々から「はるか齋王様！」とお声がけいただき嬉しかったことを思い出します。

おまつり後も定例のイベントはもちろんのこと、三重県の女性フォーラム、伊勢神宮での奉納演奏、東京で行われたROOMSや私の写真を使用したラッピングバスの運行、「明和町から世界へ」をコンセプトとした日本酒プロジェクトinパリでの試飲会資料への利用など：いろんな方面から齋王、齋宮、明和町、三重県をPRする機会をいただけたこと、嬉しく思います。

私は「齋王はこうでなくては」という印象を守りながらも自分の色を出したいと思いつつ活動してまいりました。

皆様の心に私の色が残りましたでしょうか？
第32代齋王役で良かったと心から感じております。親切にしてくださいさり支えてくれた関係者の皆様、そして私の演じた齋王を愛してくださいだった皆様、心より感謝申し上げます。どうぞ齋王まつりをこれからも宜しくお願い致します。



子ども齋王
高岡 璃音

子ども齋王を務めて

私は、前夜祭に大勢のお客さんの前で、うまく開会宣言を言えるかどうか、不安でした。でも、いっぱい練習したから、うまく言えることができました。齋王まつり当日も周りの大人からのやさしい言葉で、勇気をもってやることができました。

とてもよい思い出になりました。楽しかったです。



葱華輦復元模型(齋宮歴史博物館蔵)

永遠の祈り

齋王まつり実行委員会代表 土井 祐治

昨年、待望の齋王まつりのテーマ曲「齋王 永遠の祈り」を明和町明星出身で高名な作曲家・音楽プロデューサーである長岡成貢氏が作って下さいました。

第三五回のサブタイトルは、このテーマ曲にちなみ「永遠の祈り」としました。

前夜祭のステージでは、特別ゲストとして同氏によりこの曲を初め多数演奏して頂きますので是非ご鑑賞下さい。

「齋王まつり」は、地元住民の皆様、後援の皆様、協賛企業の皆様のご支援・ご協力で開催されており、実行委員一同厚くお礼申し上げます。

実行委員会は「齋王まつり」「各種行事・イベント」を通じて、明和町の発展や齋宮跡の活性化に向けて気持ちを一つにして頑張っています。

この度、明和町歴史的風致維持向上計画により進めていました「いつきのみや地域交流センター」と「明和町観光案内所」を完成して頂きました。両施設を活用し実行委員も益々邁進していく所存です。

町の花「ノハナシヨウブ」が咲き誇る「祈る皇女齋王のみやこ 齋宮」で雅なひと時をお過ごしください。



主催／齋王まつり実行委員会

後援◎三重県、明和町、明和町教育委員会、明和町観光協会、明和町商工会、齋宮歴史博物館、(公財)国史跡齋宮跡保存協会、(一財)民族衣裳文化普及協会
中部運輸局三重運輸支局、近畿日本鉄道株式会社、NHK 津放送局、三重テレビ放送(株)、三重エフエム放送(株)、松阪ケーブルテレビ・ステーション(株)、皇學館大学
問い合わせ◎齋王まつり実行委員会事務局 TEL.0596-52-0054 FAX.0596-52-7274